

あるところに、はくたかという特急列車がいました。

昔は東京の上野駅と石川県の金沢駅の間を走る特急列車でしたが、走っていた線路のすぐ側を走る新幹線が新しく開業する事になったので、廃止になってしまったのです。

廃止となった特急は、これまでのようにお客さんに乗せて線路を走ることが出来なくなり、ます。急に仕事がなくなってしまうたはくたかは、時間を持って余していました。

はくたかの住む家からは、かつて自分が走っていた線路が見えました。部屋の中から窓を覗けば、顔見知りの特急たちが、多くのお客さんに乗せて走っていく様子が見えます。

忙しそうに走り回る昔の同僚の姿を見て、はくたかのため息を一つ。

「僕も、もつともつとお客さんに乗せて走りたかつたなあ……」

今も走り続ける、他の特急たちの事をうらやましく思いながら、はくたかは今日も窓から外の様子を眺めていました。

1.

その日は、いつもと少し様子が違っていました。

訪れる人などほとんどいないはくたかの家へ、誰かがやって来たのです。

いつもと同じように線路を眺めていると、突然玄関のチャイムが鳴ったので、はくたかは驚きました。慌てて玄関へ出てみると、そこには見たことのない男の人が立っています。

「こんにちは。あなたは誰ですか？ 僕に何かご用ですか」

「私は、鉄道会社の者です。君が、特急はくたかかい？」

男の人の問いに、頷きそうになつたはくたかでしたが、いいえと首を横に振りました。

「昔は、そうでした。でも今の僕は、特急はくたかではありません。特急はくたかは、もう線路の上を走っていないのですから」

はくたかが悲しそうな顔を見ると、男の人は、君に用事があるんだよ、と言いました。そして、はくたかに訊ねます。

「君は再び、特急列車として、線路の上を走りたいと思うかい？」

はくたかはすぐに頷きました。廃止になつたあの日から、いつか再び線路の上を走る特急

「はい！ 走りたいです！」

すると、男の人はにこりと笑うと、うん、と頷いて、はくたかにこう言いました。

「今度、新しい路線が出来るんだ。私の会社がつ作っている路線だ。そこを走る特急を探していて、昔廃止になった君に行き当たった。もし嫌でなければ、『特急はくたか』として、再び線路の上を走ってくれないか」

最初は、夢かと思いました。はくたかにとつて、あまりに都合が良すぎる話です。にわかには信じられません。けれど、はくたかの顔をまつすぐ見つめる男の人の顔は真剣そのもので、嘘を吐いているようには見えませんでした。

何より、自分を必要としてくれる人や場所があるならば、その期待に応えたいと思う気持ち、はくたかの背中を押してくれます。

信じてみよう。そう思ったはくたかは、大きく頷きました。

「僕で良ければ、再び、特急はくたかとして走ります。いえ、走らせてください」

はくたかの返事を聞いて、男の人ははくたかの方へ手を差し出しました。二人がしっかりと握手を交わすと、その人ははくたかに一つ約束してくれました。

「よろしく、はくたか。私は、君を日本で一番有名な特急列車にしてみせるよ」

男の人は、北越急行という鉄道会社の社長さんでした。社長さんは、はくたかの元へやってきた理由を話してくれました。

はくたかが廃止になった後、鉄道で東京から北陸へ行くには、三つの行き方がありました。一つ目は、はくたかとは違うルートで上野と金沢を結んでいる特急白山に乗る行き方。時間ばかりですが、乗換がいらす、根強い人気を誇っています。

二つ目は、はくたかと入れ替わるように開業した上越新幹線に乗って、新潟県の長岡駅まで行き、そこから特急かがやきがやきに乗る行き方。

三つ目は、昔からある、東海道新幹線に乗って滋賀県の米原駅まで行き、そこから特急しらさぎに乗る行き方です。

ですが、どの行き方も、片道四時間以上の時間が掛かります。

昔はそれでも良かったのですが、各地に新幹線が建設され、鉄道での移動時間が短くなる中、関東と北陸の所要時間も短くする必要が出てきたのです。

そこで、その時間を更に短くするため、長岡駅よりも東京に近い場所にある、上越新幹線の越後湯沢駅から、新しく造られる線路、北越急行ほくほく線を使って日本海側へ抜け、直

江津駅から北陸本線を通って金沢駅まで行く、新しい特急列車を走らせることが決まったのです。

その特急列車として選ばれたのが、はくたかでした。

社長さんは、言いました。

「北越急行のほくほく線は、普通の線路以上の速度が出せるよう、新幹線と同じ規格で造った線路なんだ。だから、はくたか、君はいつでも国内で一番速い特急列車になるんだよ」

そうすれば、日本一有名な特急列車になれるだろう、社長さんはそう言いました。

ですが、再び特急として走れる事が決まったばかりのはくたかには、まるで実感が湧かず、夢のような話です。日本で一番速い特急列車だなんて、一体どれくらいの速度で走ればいいのか。

「ご期待に添えるよう、がんばります」

今のはくたかには、そう言うだけで精一杯でした。

こうしてはくたかは、再び「特急はくたか」として走る事になりました。

昔のように、直接東京と金沢の間を走ることには出来ませんが、それでも、以前と同じ、東京と北陸を移動するお客さんの役に立てる事が、はくたかはとても嬉しかったのです。

そして、再び特急として走る機会を与えてくれた、北越急行の社長さんはもとより、これから特急はくたかの運行を支えてくれる、JR西日本と東日本の人たちにも、深く感謝してました。

「選んでもらったからには、役に立てるように精一杯頑張ろう」
そう、心に誓いました。